

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

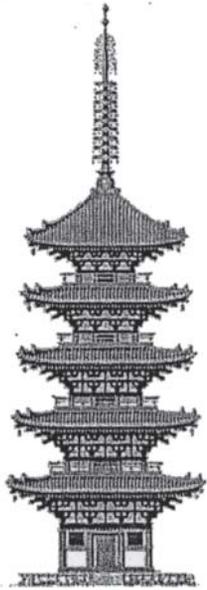
皆さん、こんにちわ。今日はご祥当。いよいよ春本番ですが、朝晩は冷え込む日もあります。くれぐれもご自愛ください。紙上遍路の今年のかわら版。それでは出発。

★女人即身成仏

九番札所から約五キロメートル。十番札所は得度山切幡(きりはた)寺。ご本尊は千手観世音菩薩です。参道は急で、山麓から中腹の本堂まで約八百メートル。

お大師様がここで修行をしていた時、山麓に機(はた)を織る娘がいたそうです。お大師様が僧衣を繕うために端切れを所望したところ、娘は自分が織った布を切ってわけてくれました。

寺名(切幡寺)の由来です。「自分も仏門に入って精進したい」と言う娘のために、お大師様は千手観世音像を彫造。そして娘を得度させたところ、娘は即身成仏して千手観世音菩薩に変化(へんげ)。



お大師様の彫った千手観世音像を南向き、娘であった千手観世音菩薩を北向きに安置してご本尊としました。「女人即身成仏の寺」として知られ、心優しい善女に憧れる女性遍路に人気の高い札所です。

★四国三郎

十番札所から九・一キロメートル。歩くこと約二時間。十一番札所の金剛山藤井寺に到ります。

道中、全長二・三六キロメートル、四国最長の吉野川を渡ります。葦(よし)が河原に多く繁ることから吉野川と呼ばれるようになりました。

古来より、たびたび大洪水を起す各地の大河川は腕白(わんぱく)兄弟に喩えられ、関東の利根川は板東太郎、九州の筑後川は筑紫次郎、四国の吉野川は四国三郎と呼ばれていました。

吉野川は水流が四国全県に及びます。江戸時代には、阿波(徳島)藩内の豪雨に伴う水害を「御国水」、土佐(高知)藩内の豪雨に伴う水害を「阿呆(土佐)水」と呼んだそうです。

藤井寺は真言密教の大伽藍とし

て発展しましたが、天正年間(一五七三〜九二年)の兵火により焼失。一六七四年、阿波藩主(蜂須賀氏)が帰依していた臨濟宗の南山国師が入山して再興しました。このため、一番から十番札所は真言宗ですが、藤井寺は臨濟宗妙心寺派。ご本尊は薬師如来です。



四国八十八ヶ所霊場マップ(十番から、十二番)

★遍路ころがし

十一番札所から十六・八キロメートル。十二番札所は摩盧山(まろざん)焼山寺(しょうざんじ)。標高九百メートル近くにあり、二番目に標高の高い山岳霊場。ご本尊は虚空蔵菩薩です。

四国霊場には、お大師様のはからいによって六カ所の難所(苦行の札所)があります。ここ十二番焼山寺に始まり、二十番鶴林寺、二十一番太龍寺、二

十七番神峰寺、六十番横峰寺。それぞれ険しい山中に本堂があり、「遍路ころがし」と呼ばれています。

★衛門三郎と逆打ち

焼山寺は、四国遍路の元祖、衛門三郎最期の地。

三郎は伊予(愛媛)の強欲な長者。ある時、門前に立った托鉢僧を邪険に扱います。托鉢の鉄鉢も奪って投げ捨て、砕きました。すると、三郎の家族は次々と災難に見舞われます。三郎は托鉢僧はお大師様に違いないと気づき、会って詫言いたい一心で八十八カ所霊場を二十回巡拝。しかし、お大師様には会えませんでした。

三郎の逆回りの巡拝は逆打ち(さかうち)の始まりと言われています。因みに、四国を右回りに巡拝するのは順打ちです。

★阿波霊場二十三カ所

今月は三〇・九キロメートル踏破。来月は十二番札所から鮎喰川沿いに下ります。阿波霊場は二十三カ所。来月は後半に入ります。乞ご期待。

